

もくじ

香川 県 かがわゆきかけ 香川之景 8

徳島 県 みよしながよし 三好長慶 10

愛媛 県 こうのみちなお 河野通直 12

高知 県 ちょうそかべもとちか 長宗我部元親 14

ひでよし 秀吉の四国ぜ攻め 16

福岡 県 たちばなぎんちよ 立花闇千代 20

佐賀 県 りゅうそうじたかのぶ 龍造寺隆信 22

長崎 県 おおむらすみただ 大村純忠 24

大分 県 おおともそうりん 大友宗麟 26

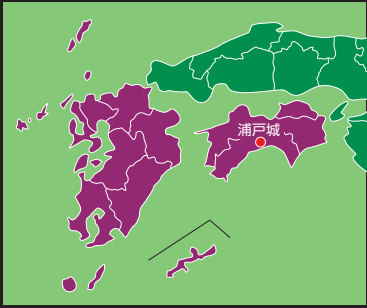
熊本 県 さがらよしひ 相良義陽 28

宮崎 県 いとうよしすけ 伊東義祐 30

鹿児島 県 しまづよしひさ 島津義久 32

ひでよし 秀吉の九州ぜ攻め 34

沖縄 県 しょう 尚 しん 真 38



ちょうそかべもとちか 長宗我部元親

高知県  浦戸城

ひでよし ぐんもん くだ おく 秀吉の軍門に下りクジラを贈る

現在の高知県南国市の岡豊城に生まれた長宗我部元親は、高知県を統一すると、徳島県、愛媛県、香川県に侵入しはじめました。そんなとき、織田信長によって四国攻めが計画されます。しかし、その直前になって本能寺の変が起きて、信長がみずから命を絶つたため、元親は命拾いします。近年、明智光秀の重臣の斎藤利三と、元親とその周辺の人物のあいだの手紙が見つかったことから本能寺の変「四国攻め回避説」が唱えられ、黒幕候補にあがっています。

本能寺の変のあと、元親は四国統一を果たしますが、豊臣秀吉によって四国を攻められ、戦のあとは高知県だけが領地としてみとめられます。そのお礼なのでしょうか、元親は高知県から大坂城までクジラ1頭を運んでプレゼントし、秀吉をおどろかせたといひます。

さらに九州攻めに加わりますが、戸次川の戦いで長男の信親が討ち死に。四男の盛親を跡継ぎに決めると反対する者を処刑し、おどろかせます。大高坂山(のち高知)城(高知市)から浦戸城(高知市)に移った元親は、領地内では検地をおこなったり、「長宗我部元親百箇条」を出したりして、きちんとおさめていましたが、関ヶ原の戦いの前年に死去。西軍についた盛親は、帰国後、領内で一揆が起きたため領地を没収され、かわりに山内氏が高知県に入りました。

やまうち 山内氏の時代

槍が上手だったという山内一豊は、信長、さらに秀吉のもとで出世を重ねました。

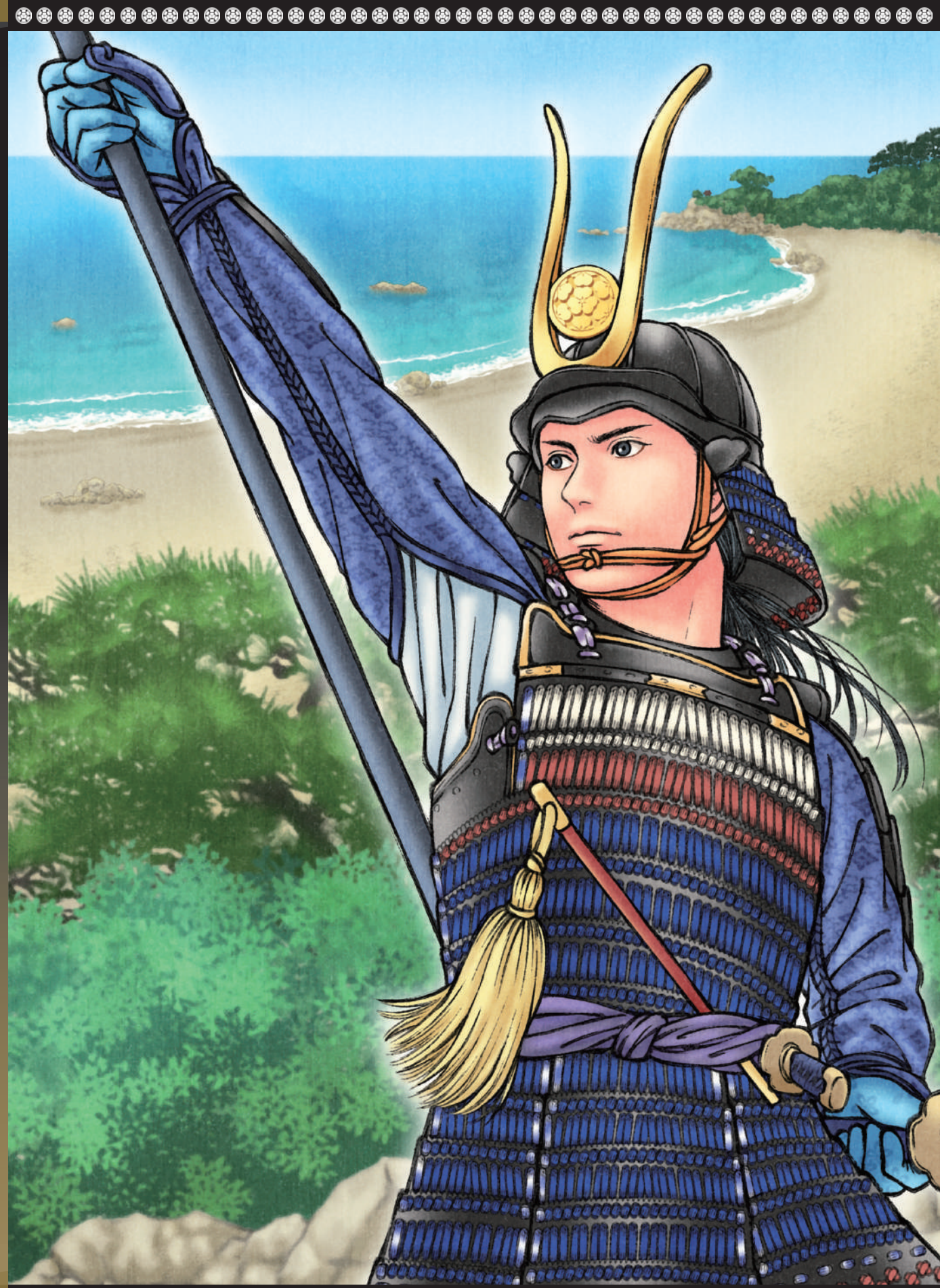
そのかげでは一豊の妻が「嫁入りのとき父親がもたせてくれたお金で馬を買わせて出世させた」などのエピソードが残されています。

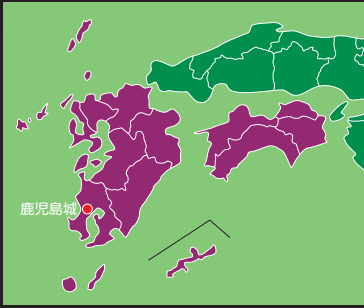
秀吉の死後、関ヶ原の戦いでは徳川家康ひきいる東軍に味方し、戦後、掛川城(静岡県掛川市)主(5万石)から高知城主(24万石)となって、土佐藩初代藩主となります。

山内氏は土佐藩主でありつづけ、とくに幕末の山内豊信(隠退後、「容堂」と号す)は、四賢侯のひとりに数えられるほど、すぐれた人物でした。ちなみに、ほかの3人は「薩摩藩の島津斉彬」「福井藩の松平春嶽」「宇和島藩の伊達宗城」です。

容堂は、徳川慶喜に大政奉還をすすめたことでも知られています。

また容堂は大の酒好きで知られ、自分のことを「鯨海酔侯」「酔翁」と称していました。





しま づ よし ひさ 島津義久

鹿児島県 ⊕ 鹿児島城

九州を平定した島津四兄弟

鹿児島城(鹿児島市)に住み、現在の鹿児島県のほぼ全域をおさめたのは島津貴久のときでした。貴久には4人の息子がいました。義久・義弘・歳久・家久です。貴久の父の忠良は4人の孫の性格を見抜いていました。「義久はおとなしいが総大将の器がある。義弘は武士としてすぐれている。歳久は頭がいい。家久は戦の戦術に長けている」。

宮崎県の伊東氏を追い払い、伊東氏が逃げこんだ大分県の太田宗麟を耳川の戦い(宮崎県木城町)で破り、弱体化させます。すると、佐賀県の龍造寺隆信が勢力をつけ、長崎県の有馬晴信が助けをもとめてきました。そこで義弘・家久が沖田暉(長崎県島原市)でこれを破り、さらに熊本県の諸将もおさえ、九州では宗麟を残すのみになります。

しかし、その宗麟が、豊臣秀吉に助けをもとめたため、豊臣の大軍に攻めこまれることになりました。島津軍は根白坂の戦い(宮崎県木城町)に敗れ、家久は降参、義久も鹿児島にもどって髪を剃って降参します。

義弘、歳久は抵抗をつづけましたが、家久が急死したところで、秀吉は義久に鹿児島西半分を、義弘に鹿児島県の東半分と大隅諸島をあたえました。歳久は秀吉に抵抗をしたまま義久の追討を受けて亡くなります。

島津の敵中突破(島津の退き口)

関ヶ原の戦いでは、はじめ島津義弘は石田三成が現場をひきいる西軍についていました。しかし戦いはじまっても戦うことはせず、敵が攻めてきたら防いでいどしかしていませんでした。

しだいに周囲を徳川家康ひきいる東軍に囲まれはじめると、義弘は、ある策に打って出ます。敵の中を堂々と突破しはじめたのです。島津軍が真正面から向かってくるのを見て、東軍はおどろいたはずですが、島津軍は、鳥頭坂まで逃げたとき「捨て奸」戦法に出ます。最後尾を守るしんがり鉄砲を撃ったり、斬りかかったりして、ほかの仲間を逃がす、トカゲのしっぽ切り作戦です。この作戦で、徳川家康の家臣の本多忠勝は愛馬を討たれて落馬、井伊直政と松平忠吉は負傷してしまいます。いっぽう島津軍は、義弘の甥の豊久らが討ち死にしました。義弘ら80人あまりは山を越えて堺(大阪府堺市)までたどり着き、そこから船で鹿児島県までもどることができました。

